

つるおか芸文だより

第18回鶴岡市芸術祭賞決定

大賞に 吉統舞踊学園

今年度の第18回鶴岡市芸術祭は、新型コロナウイルスの5類移行を受け、各会場に賑やかさが戻るなか、参加全ての展示や公演が開催されました。9月～12月上旬までの約3カ月間に渡り、45団体による38の公演や展示が行われ、多くの市民の皆様が芸術文化に触れる機会となった芸術祭は、盛況のうちに幕を閉じることができました。12月23日には閉幕のつどいを開催、芸術祭賞については次のとおり決定しました。



吉統舞踊学園の公演

《評》

『創設95年記念 吉統舞踊学園現代舞踊公演』

公演は28曲演じられた。3歳以上の幼児の可憐なダンスから、成人の優雅な舞踊まで多種多様なテーマで構成されていた。学園の95年に及ぶモダンダンスの研鑽と努力が創造性、表現力、構成力の高さとなっている。学園の心身の健やかな成長を願う指導方針のもと、生徒達はそれぞれの技能に応じ表現力豊かに熱演しており、心温まる舞台であった。コロナ禍で打撃の大きかった舞台芸術で、

指導層も厚く、将来の方向性をも示した秀逸の記念公演であった。



吉統舞踊学園



優秀賞には4団体が選ばれました

◆第53回錦心流琵琶鶴岡支部演奏会

(錦心流琵琶全国一水会 鶴岡支部)

◆第28回庄内写真研究会写真展

(庄内写真研究会)

◆庄内金管合奏団 秋の公演2023

◆ブラソーケストラで世界旅行

(庄内金管合奏団)

◆鶴岡剣聖会「剣と扇の舞」

(剣聖流剣詩舞鶴岡剣聖会)

市民連帯の絆を紡ぎ

共感を呼んだ公演



特定非営利活動法人

鶴岡市芸術文化協会

会長 東山 昭子

コロナ感染予防に行動規制を掛けられていた芸文活動も、5類移行で選択自由な表現で取り組むことが出来る初年度となりました。4年もの間、会員各位の雌伏に耐えて尚、衰えることの無かった表現活動への熱意は、萎縮せず続けた精進の跡を見せて、生き生きとした舞台や展示となって公演され、会場を訪れる市民各位との交歓にも、美に対する渴望も含め、心温かな、お互いを讃え合う楽しい喜びに溢れていました。

大賞受賞団体を始め、受賞各団体の皆様おめでとうございます。長い歴史を営々と積み重ね95年間休演することなく、子ども達の育成に温かな眼を注ぎ、世界的に活躍できる人材を開花させてきた想いの深さや、現代的な新しい表現に意欲を燃やし、創造的な世界に挑戦した気迫の公演まで、異なる分野のそれぞれが果敢に挑戦する姿をお互いに認め合い鶴岡に根ざした文化の良さを残し、新しい制作に挑戦する「不易流行」の理念を、異相の公演に重ね合わせた見事な芸術祭で在り、受賞でした。協賛会員証の意義も、設立当初の意義を含め新たに認識を拡げました。芸文の持つ純一の感動性を中核に精進しつつ、その活動が観光や福祉、地域づくりなどに密着した創造的な世界の構築に向けて、更なるご精進を期待しています。

優秀賞の4団体



第53回錦心流琵琶鶴岡支部演奏会
錦心流琵琶全国一水会 鶴岡支部



第28回庄内写真研究会写真展
庄内写真研究会



荘内金管合奏団 秋の公演2023 プラスオーケストラで世界旅行
荘内金管合奏団



鶴岡剣聖会「剣と扇の舞」
剣聖流剣詩舞鶴岡剣聖会

みんなで集う喜びにあふれた芸術祭



猛暑日が続いた今年の夏。時折吹く風に、ようやく少しづつ秋の気配が感じられる頃に、鶴岡市芸術祭が開幕しました。開幕式典では、4月から致道館高等学校音楽部の皆さんが、美しい歌声を響かせてくれました。

今年度は、新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、芸術祭の各会場には多くの人が集まり、賑やかさが戻ってきたように感じられました。コロナ禍の困難を乗り越え、活動を続けてこられました皆様の熱意と弛まぬご努力に、改めて敬意を表します。芸術文化は、私たちに感動ややすらぎ、生きる喜びを

鶴岡市教育委員会教育長

布川 敦

もたらすだけではなく、感性や創造力を育み、暮らしを豊かに彩ってくれます。そして、共感を生み、人と人との結びつける力を持っています。互いを尊重し、多様性を受け入れる豊かな社会であるためにも欠かせないものです。

芸術祭の開催は、市民が質の高い芸術文化を身近に親しむ機会や、活動を行っている皆様が成果を発表できる機会を数多く提供し、豊かなまちづくりに、大きな役割を果たしています。東山会長をはじめ、芸術文化協会の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、多くの方が芸術文化に触れ、感動を共有できるよう努めてまいりますので、皆様には、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

～第18回鶴岡市芸術祭に想う～



鶴岡市芸術祭賞選考委員長

後藤 和夫

私が選考委員長になってから二年目。円滑に賞を決定できたことは、選考委員各位のご協力、の賜と感謝申し上げます。コロナ禍後とは云え、未だ尾を引いているような雰囲気の中で、芸術祭が滞りなく出来たことを喜び合いたいと思います。各団体の活動も大変とは思いますが、今後とも継続した努力の積み重ねで、各サークルとも人数が増え、多くのサークルが、市芸術文化協会に所属して、地域の発展にご尽力されるように念願しているところです。

第18回鶴岡市芸術祭閉幕のつどい～授賞式・懇親会～



祝辞 皆川市長



挨拶 東山会長

閉幕のつどいは、12月23日東京第一ホテル鶴岡を会場に、皆川治市長はじめ、来賓各位、加盟団体から約140名が出席し、和やかに開催されました。授賞式では、布川敦教育長より受賞団体へ芸術祭賞が授与され、東山昭子芸文協会長が主催者挨拶を述べました。また、大賞の吉統舞踊学園の代表吉續正義氏が受賞者代表挨拶を行い、引き続き優秀賞の荘内金管合

奏団による受賞記念の演奏が披露されました。クリスマスソングを含むメドレー曲が会場に響き渡るなか、皆で受賞の喜びを分かち合いました。尾形市議会議長の乾杯のご発声により、懇親会に入り、つどいの最後には、数年ぶりに「鶴岡市民歌」が流れ、コロナ禍を経て皆で市民歌を歌える喜びをかみしめながら、仲間と集い交流を深めるひとときとなりました。



布川教育長より大賞授与



荘内金管合奏団による受賞記念演奏



尾形市議会議長より乾杯



会場の様子



懇親会の様子

鶴岡市芸術祭 選考委員のみなさん

後藤 健太郎 小梅 林 芳春 小津 林 功 難波 藤 正 喜 齋藤 公 明 堀間 静 貴 久 藤山 智 昭 村山 悦 郎 五十 嵐 豊 苑 鈴木 美 代 岩松 美 子 佐藤 美 津 子 佐竹 美 子 齋藤 健 太 郎 布川 美 子 藤 潤 子 佐藤 嘉 男 柿崎 泰 裕 柿原 賢 一 柳原 昭子



特別参加公演2団体

*芸術祭大賞を授賞後3年間は「特別参加」となります。



「地球の家族のように」 みんなの幸せを願い。

● 11月3日
● 中央公民館
鶴岡放送児童合唱団

今年のステージは、昨年の戦争やコロナ・被災者への励ましのメッセージ性を訴えるものから、世界中の人々やあらゆる生き物が地球の家族として、幸せになって欲しいと願うステージになりました。声変わりをした男子在団生を主役にした合唱劇は、初挑戦ながら大好評でした。これからも子供たちの成長を見守り活動していきます。

(伴 和香子)



縁で紡いだチャリティー公演

● 9月24日
● 荘銀タクト鶴岡
山形県大正琴・文化箏愛好会

たくさんのご縁をいただき今年で35周年「縁」をテーマに全6ステージを公演。大正琴・文化箏でのアンサンブルやオリジナルの曲の演奏、子どもたちの息の合った演奏、親交のあるプロの方たちの素晴らしい演奏など、心に残る35周年の歩みを作りあげました。又、35周年記念公演として、チャリティー事業にも取りくみました。

(梅津芳春)



民話を学び楽しみ伝えて ちよつと一息気軽に会場へ

● 9月9日
● 第一学区コミュニティ
田川民話の会
防災センター

ご来場年令層は30代〜80代女性のお友達連れも多く、男性は個人でのご来場でした。皆さんの表情から、昔懐かしい、親から受けた心のぬくもりを思い出してくれた様にも見受けられ、語ってみたいのが目的が果たせたとも感じられました。疲れた体と、暑すぎた夏を乗り越えた9月9日ほっと一休みできます。一日であったと思います。

(帯刀春男)



創立99周年・令和5年度 白甕社美術展

白甕社

● 8月30日〜9月10日
● アートフォーラム

今年度は3年続きのコロナ禍も一応平時に移行し芸術祭のトップを切って開幕しましたが、異常気象の影響は大きかったと思います。昨年比出品者数、入館者数共に減少しました。しかし酷暑の中の出展作品は表現力豊かな質の高い作品が多く、充実した展覧会となりました。いよいよ来年は創立100周年記念展です。多くの皆様と盛大に祝賀会を開催し喜びを共にしたいと思います。

(五十嵐千恵子)



第19回 フォトサロン写真写真展覧会

● 9月13日〜17日
● アートフォーラム
フォトサロン写真

3年ぶりの写真展でしたが大勢の皆さんから御来場いただいた事に会員一同喜んでいきます。数団体の写真クラブが開催を復活した事で更にはどの展示会も良かったと言ってもらえる様更に、研鑽を重ねたいと思います。今は誰でもスマホで気軽に写真を撮って身近になっていきます。私も展示したいと言えます。展示会に思っています。

(菅原健二)



表千家流茶会

表千家同門会 山形県支部庄内地区

● 9月10日
● 致道館

コロナ制限緩和となり初めての茶会、残暑厳しい中、大勢のお客様にお出で頂き御一緒出来た事はとても嬉しい事でした。今年は呈茶席と本席にし一席毎のお客様を少人数で入席頂きました。楽しい茶の「ひととき」で有りましたら幸せに思います。表千家の茶を愉しんで頂ける様励んでゆきたいと思っています。

(三浦宗椿)



如月会水墨画展 如月会

● 9月28日～10月1日
● 中央公民館

出品点数は55点（昨年比+1）、屏風1、軸2、50号5、4、8号21、色紙5点でした。ジャンルは、山水、風景が多く、次に花、静物、人物でした。全国展入賞、入選作から入会間もない会員の作品まで幅広く充実した内容の展覧会でした。

これからも、常に基本に立ち返って、会員の相互の交流・研鑽を積み、内容の充実に努めます。
（梅本幸仙）



あつみ作品展 温海芸術文化協会

● 9月14日～17日
● 温海ふれあいセンター

温海芸術文化協会会員の作品発表の場として親しまれている「あつみ作品展」。

今年は、陶芸、切り絵、俳句などの例年出展されている作品以外にも、写真の出展もありました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、多くの方からご来場いただきました。
（本間庸枝）



笑顔あふれる遠州流茶会 遠州流茶道 山形支部

● 10月1日
● アートフォーラム

気軽にお茶会に足を運んで頂きたいの思いから、お客様には椅子に座るお席としました。鶴岡アートフォーラムの開放的な空間を生かし、趣の異なる二席で遠州流茶道の明るさ美しさを表現しました。お稽古を重ねた支部員と笑顔のお客様が共に楽しめた茶会となりました。

（堀 宗敬）



日本人の魂の侘び寂び雅を味わう 「俳雅会かな書作展41周年」 一東書道会鶴岡支部俳雅会

● 9月29日～10月1日
● アートフォーラム

昨年に引き続き題材は百人一首と源氏物語から短冊の分野を初めて生徒達に経験してもらいました。玄関等にも場所も取らずに飾られる事で仮名の侘び寂び雅を楽しんでもらえたと挑戦しました。対外的にも、アピールして行く事も、日本の文化である曲線の仮名文字を知っていただくという事を続けて行く事が大事だと思ってます。

（阿部俳雅）



庄内の自然に目を向けて 佳陽会

● 10月3日～9日
● アートフォーラム

コロナ禍で行動半径が小さくなって身の廻りに視野が限られてしまいがちでした。それでも庄内の自然の変化に目を向けて、その輝きを表現して参りました。観客の皆様には、日本画に対する関心の深い方も多く、表現や技法についてよく聞われました。未熟ではありますが、更に研鑽を積んで感動を表現して参りたいと話合っています。

（茅野淑）



第53回 錦心流琵琶演奏会 錦心流琵琶全国一水会 鶴岡支部

● 10月1日
● 中央公民館

本年は、鶴岡支部発足から昨年まで60年に及び貢献された故、奥山徹水師の追悼演奏会を行い、名演奏された個人を偲んだ。鶴岡支部員7名の出演者の中には、初伝や教師免状披露があり、又新潟、秋田支部長2名の近県交流演奏が加わり、それに舞台照明、音響のスタッフのご協力により盛会裡に演奏会ができました。

（市川清治）

短歌の種を次の世代へつなげよう

鶴岡市合同短歌会

● 10月5日
● 市立図書館



秋らしい日がやってきました！10月の5日、鶴岡市合同短歌会を開催することができました。鶴岡、三川に存続の各団体、個人参加という形で短歌を愛する人々が一堂に会し、言葉を手掛かりに話し合う場を持つ刻を共有できた事を喜びたいものです。この地に短歌の種を蒔いてくれた先人の心を大切に次の世代へとつなげたいものです。

(山口園枝)

楽しみながらの一服

裏千家淡交会 庄内支部

● 10月15日
● 庄内神社参集殿



深まりゆく秋を愛でながら庄内神社参集殿で茶会を開催いたしました。多くのお客様が足を運ばれて、濃茶、薄茶の両席ともに楽しんでいただきました。各服の濃茶は久々でしたので参加者の「おいしかった」という声と笑顔がとても嬉しかったです。これからお茶の良さを多くの方々に知って頂きたいと思っています。

(富樫宗富)

身近な自然のワンダーランド

鶴岡小品盆栽会

● 10月19日～21日
● 中央公民館



酷暑をのり越えた「我が家の盆栽」も、ようやく迎えた秋に展示会のスポットライトを浴びて輝いていました。特に実の成っている手の平に乗る梅もどき、りんご、姫柿などを見て「かわいい」「きれい」との声が聞こえました。今回は期間中に東京の盆栽月刊誌の取材を受けました。地方での盆栽現状を載せてくれるそうです。

(上林節男)

朝日俳句・短歌・川柳合同展

朝日俳句の会

● 10月20日～11月5日
● 朝日中央コミュニティセンター



今年度も、あさひ産業文化まつりの開催期間に合わせて、朝日俳句・短歌・川柳合同展を開催しました。俳句部門では、今回も小中学生から多くの出品があり、合同展の出品点数が235点と、大変見ごたえのある展示になりました。俳句などを通して、これからも学ぶことの楽しさを追求めていきたいものです。

(佐藤照子)

第60回 各流派合同いけばな展

鶴岡市いけばな流派(池坊古流松應会 小原流 華道植草流・草月流)

● 10月21日～22日
● アートフォーラム



第60回各流派合同いけばな展は2日間の開催で1844人の御来場を頂きました。コロナ感染全面解除で花展を楽しむにしていた多くの方々が会場では、なごやかな雰囲気の中楽しんでおりました。各流派の特徴を生かした個性豊かな作品133瓶が展示されました。来年も更に研鑽を積んでステキな秋の風情を表現したいと思っています。

(池坊・富樫美知子)

佳興の会邦楽ライブ Vol.14

佳興の会

● 10月22日
● 佳興堂



佳興の会は1、4、7、10月と年間4回の邦楽ライブを行い、14回目(市芸術祭参加第3回公演)です。今回は初めての試みで、4人が尺八、琵琶、三味線、大正琴の共演をしました。今後も多彩なゲストをお迎えするなどして、毎回足を運んで下さるお客様に感謝の気持ちを忘れずに喜んで頂ける演奏を目指していきます。

(岡政雄)



庄内文化センター写真教室写真展

● 10月25日～29日
● アートフォーラム
庄内文化センター写真教室

我々の写真教室は第14回芸術祭に初参加しましたが、その後NHK文化センターがコロナの影響により閉鎖され、今回は庄内文化センター写真教室と名称は変わりましたが2回目の参加になりました。今回は展示スペースを2倍にし作品をゆっくり鑑賞頂ける様にしました。共通テーマを桜として桜の写真38枚を壁一面に展示しました。

(菊地勝春)



華のかほり Vol. XVI フラメンコ讃歌 in 鶴岡 AKIKO フラメンコスタジオ

● 10月22日
● 中央公民館

「フラメンコは人生をも物語る」のテーマを掲げての19演目終了致しました。たゆまぬ努力を続けてきたスタジオオ生の心模様その心意気、その人生をつぶさに披露。又生の音楽芸術と共にフラメンコの醍醐味、ほとぼしる熱情と哀愁を劇場空間に構築。目標の一つである感動の舞台を創ることができたのではないかと思います。

(富樫昭子)



秋季さつき盆栽展

鶴岡さつき盆栽研究会

● 10月27日～29日
● 中央公民館

今年もどうにか実施することができました。夏の天候の影響もあり次の花季展が心配ですが、今年も42年目ですが、新会員は増えず、出品数も減少し、これからの内容も工夫が必要ですが継続する予定です。今回も小品盆栽の出品やさつき以外の紅葉鉢の展示で華やかさをカバーしての実施でした。他団体のコラボなども考えています。(岡部誠)



第29回飛雲会展を終えて

書道研究 飛雲会

● 10月26日～29日
● アートフォーラム

今年で29回目となる展覧会となりましたが、会員も当初のメンバーは2、3人しか残っておらず、ここ2、3年は新人による作品が多く、拙作も見られましたが、努力と経験を重ね、会場に負けない作品になって来た様に思います。来年は30回目の節目となりますので一層精進したいと思っています。

(渡部飛雲)



日本九重流鶴城清吟会 第47回吟詠大会

日本九重流鶴城清吟会

● 10月29日
● 中央公民館

会員が普段練習している教場での発表で男女合吟が多くなりました。今年よりお客様に詩吟をより楽しんでもらえるよう歌謡吟詠を2曲入れました。聞いてくれたお客様より良かったの声が多くありました。鶴岡市大山公園「尾浦城址」を舞台とした構成吟尾浦城物語りは庄内漢詩、短歌と言う事で普段練習している吟とちがいが苦勞しました。(佐藤謙)



大衆演劇の魅力存分に！

表現舎一刻

● 10月29日
● 荘銀タクト鶴岡

平成元年創設の表現舎一刻(現代劇)と平成4年創設、劇団夢一座(大衆演劇、舞踊)の二足の草鞋で活動し、今年で36年目をむかえました。記念すべき、第10回大衆演劇まつりとして、第一部人情時代劇「命の絆」、第二部は、大暴れ艶歌夢舞台として、笑いと涙の人情芝居、多彩な舞台構成で、多くの観客を楽しませる事が出来ました。(佐藤正二)

第28回

庄内写真研究会写真展

庄内写真研究会

● 11月1日～5日
● アートフォーラム



コロナの関係で長らく休会し、本年度から市芸術祭参加第28回目の写真展を開催するにいたしました。休会中に、各自独自の研鑽の蓄積を遺憾なく発揮した作品、半折から全紙で展示する事ができ、熱意と感動を伝える作品となったと思います。また、ご観覧の皆さまからも、全作品から熱意と感動が伝わったと大好評をいただきました。来年度も、会員各自が一層研鑽に励み、感動を呼ぶ作品創りに専念し、今年以上の展示会を目指したいと思っております。(佐藤時彦)

たくさんのお客様の前で

● 11月3日
● 荘銀タクト鶴岡



結成10周年の節目に、初のホール公演それも荘銀タクト鶴岡の大舞台で開催できました。

【プラスオーケストラで世界の音楽】と題し、指揮者の本田礼先生、ゲストの太田真由美さん・齋藤耕基さんとの相乗効果で、たくさんのお客様と楽しい時間を共有することができ、演奏する者として至上の喜びでした。

(伊藤聡)

第75回庄内書道展覧会

鶴岡書道会

● 11月3日～5日
● アートフォーラム



鶴岡・田川地区よりの保・幼・小・中・高からの応募作品が去年より少なく、820点の展示となりました。学年ごと、学校ごと、高さなど、見やすい展示を心掛けました。多くの出品数を見込みたので、要項などの配布時期を早めにしたと思います。(山本良伸)

宝生流歓世流合同謡曲大会

宝生流鶴岡五雲会・庄内謡曲愛好会

● 11月5日
● 黒川能伝習館



宝生流鶴岡五雲会は素謡と仕舞6番、庄内謡曲愛好会は連調とお囃子、舞囃子を披露しました。日頃の稽古、長年の精進による一年に一度の発表会ですが、今年には伝統ある黒川能伝習館をお借りして開催しました。沢山の方々に見て頂きたい思いを届けるのは難しいですが、出演団体の増加を図り、今後も能楽の伝統を繋げていきたいものです。(岡眞理子)

伝えよう吟詠の心 構成吟故郷(ふるさと)「望郷の詩」

日本九重流朝陽清吟会

● 11月5日
● 東京第一ホテル鶴岡



構成吟故郷(ふるさと)——望郷の詩——
望郷Ⅰ ふるさとを想う。先人の詩として白井重行・中世古克一杉山簾・鳥海北岳・黒崎研堂・三矢重松・土屋竹雨などの作品。望郷Ⅱとして鶴岡が誇る直木賞作家・藤沢周平・作品(俳句と短歌)を詠った酒井南山氏の漢詠を披露した。今回は作品の随所に映像を添えた発表でした。(百瀬皓洲)

庄内水彩展

日本水彩画会 庄内支部

● 11月7日～12日
● アートフォーラム



鶴岡市芸術祭に参加させていだいて初めてアートフォーラムでの展覧会でした。余目町の響ホールでは、過去に33回展覧会を実施してまいりましたが、今回は特に新鮮で、メンバーみんなが張り切って楽しく参加させていただきました。多くの皆さんに喜んでご高覧戴けたことが最大の喜びです。(鈴木幸治)



錦姫物語〜Renewal〜

出羽庄内市民ミュージカル若手塾

● 11月12日
● 中央公民館

「蜂子の皇子物語」の姉妹編「錦姫物語」を、創作ミュージカルとして発表した昨年に続き、ラストシーンをプラスして、未完成だった新曲をつけてもらって、歌とダンスを稽古、完成編を発表しました。

多くの方のご指導と稽古に励んだ若手塾メンバー達の粘りで、目標通りの舞台を、お客様にお見せすることが出来ました。ビバ!!

(大井卓磨)



第14回 写団はぐる会員写真展

写団はぐる

● 11月8日〜12日
● アートフォーラム

今年の会員写真展は出羽はぐる光景、松例祭、一期一会の風景、冬の五能線、山岳を各自のテーマごとに切り取った作品を展示しました。今までにない大勢の方から観に来て頂き次回へ向けての撮影意欲が湧いてきました。会員一同、皆様に感謝しています。

(菅原功)



第21回バウムクーヘンオータムコンサート2023

バウムクーヘン

● 11月23日
● 荘銀タクト鶴岡

今年のコンサートはコロナ対策や制限なしの通常開催に戻り、大勢の来場者の前で幼児から大学生までの出演者89組がのびのびと演奏してくれました。

出演者にとって励みや飛躍の場となると同時に、ご来場くださったお客様の心が明るくなるようなコンサートを目指し、指導者の更なる向上を図りながら活動していきます。

(石澤真紀)



創設95年の 舞台の成功をよろこんで

古続舞踊学園

● 11月19日
● 荘銀タクト鶴岡

創設95年記念発表会は、見事に出来ました。子供から大人まで、初舞台を踏む人も経験豊かな人も、全員が充実した舞台を創り上げる事が出来ました。記念公演に力を込めて、酒田鶴岡合同の舞台、本当にうれしく思っています。さらに高みを目指し、子供たちと一緒に努力を重ね様と思っています。どうぞよろしくご鞭撻下さい。

(吉續正義)



第38回定期演奏会

鶴岡吹奏楽団

● 11月26日
● 荘銀タクト鶴岡

今年には荘銀タクト鶴岡で4回目の演奏会となった。3年ぶりに当団音楽監督の小塚類先生をお迎えし、1部では華やかなオーブニングに加え、誰もが一度は耳にしたことのある「木星」をメイン曲とした。第2部では、医療従事者への感謝の意を込めた選曲とし、わかりやすい解説付きで披露した。中間にはアンサンブルによる演奏も取り入れた。チラシ挟み込みやポスターによる宣伝を積極的に行い、例年より集客数が多い結果となった。

(大場輝和)



剣詩舞の「楽しさ」を 剣聖流剣詩舞鶴岡剣聖会

● 11月23日
● 中央公民館

秋晴れに恵まれ大勢の観客のご来場をいただき2時間、18演目を発表することができました。構成舞「心を舞う」は時代の流れの中で生きた人物の迷い苦しみを強さなどを曲の吟味、衣装、映像等を工夫し表現しました。今年は「楽舞」をキャッチフレーズとし稽古で培った「楽しさ」を観客と共感することでした。

(小竹郁弥)

第72回定期演奏会

鶴岡土曜会混声合唱団

● 12月2日
● 荘銀タクト鶴岡



4年ぶりにマスクを外し、70名を超える団員での演奏会が開催できました。あわせて、コンクール全国大会出場の情報もさせていただきました。ピアノには小宮康裕さんを初めてお迎えし、感動的なステージを創りあげることができました。これからも地域に根付いた活動を続けていきたいと思っています。

(阿部淳二)

第23回定期演奏会

スイング・クレイノーズ・ジャズ・オーケストラ

● 12月3日
● 荘銀タクト鶴岡



満席のお客様の前に演奏出来る幸せを、全員が噛み締めたステージでした。愉しむに足る演奏をお届けしたい。そんな思いで毎年準備、企画しています。ジャズに馴染みの無かった方に、来年もきつと来るから、と言って頂ける事がまた励みになっています。ゲストの阿川泰子さんも大いに盛り上げて下さいました。

(橋本祥造)

多彩な芸術文化が盛り上げる藤島の秋

ふじしま文化フェスティバル2023

作品展示・文化講演会・芸能発表会・音楽祭

● 10月6日～11月12日

● 藤島地区地域活動センターほか



10月27日から29日まで開催された第51回藤島芸術文化祭では、作品展示、囲碁大会、民話の語り、2つの流派による合同茶会、芸能発表会が行われました。28日には文化講演会として、山形住みます芸人ソラシドのトークショーを開催。29日の芸能発表会では、芸文協の新規会員を含めた9団体1個人が歌や踊り、楽器演奏を披露し、観客から惜しみない拍手が送られました。



11月4日のふじしま音楽祭には、子どもから大人まで幅広い年代の10団体202名が出演し、あたたかなハーモニーを奏でました。

期間中は5地区の芸術祭、各小中学校及び庄内農業高校の文化祭、東田川文化記念館での明治ホールコンサートも開催され、藤島の芸術の秋を盛り上げました。

(ふじしま文化フェスティバル実行委員会)

子供から大人まで「羽黒芸術文化祭」

令和5年度羽黒芸術文化祭

作品展示、芸能発表、囲碁・将棋・俳句大会

● 11月3日～11月5日

● 羽黒体育館・羽黒コミセンほか



『羽黒芸術文化祭』が11月3日から11月5日までの日程で開催され、作品展示、芸能発表、囲碁・将棋・俳句大会が行われました。

作品展示は羽黒体育館アリーナを会場に、書道・絵画・写真・手芸を始めとする907点の多彩な作品が展示されました。大人だけでなく保育園児や小中学生の作品も展示しました。訪れた人は足を止めてじっくりと鑑賞しており、親子連れも多く会場に足を運んでいました。



5日の芸能発表会は羽黒コミュニティセンターで開催しました。今回は羽黒芸術文化協会以外の団体も参加し、13団体71名が出演しました。各団体が趣向を凝らし、日頃の練習の成果を発揮した発表に、会場は盛り上がりしました。(羽黒芸術文化祭実行委員会)

櫛引の秋、芸術の実り

第55回 くしびき文化祭

文化財めぐり・展示部門・まなびいステージ

●10月9日～11月19日

●高齢者活動センター・櫛引西小学校



第55回を迎えたくしびき文化祭は、生涯学習センターの改修工事に伴い、展示は高齢者活動センター、発表部門のまなびいステージは櫛引西小学校体育館に場所を移して開催されました。また、展示、発表部門に先立って実施された文化財めぐりでは、金山町を訪ね、景観についてや明治初期に日本を訪れたイギリス人冒険家イザベラバードの事を学び、見聞を広めることができました。展示部門はパネルを運び入れ、例年通りに実施しました。櫛引地域の小学校・中学校の絵画や書道作品、保育園の絵画の展示の他、福祉団体の作品、公募の生け花やちぎり絵、手芸、写真、書など特色のある642の作品が一堂に並べられました。

発表部門は、特別出演のエクセレント・シユガーズをはじめ、10団体、102人が出演し楽しいステージとなりました。

(くしびき文化祭)

実行委員会

4年ぶりの全面開催に笑顔あふれる

令和5年度あさひ産業文化まつり

作品展示・芸能発表・おまつり広場

●10月20日～11月5日

●朝日中央コミュニティセンターほか



10月20日から11月5日まで開催された作品展示部門では、書道、絵画、写真、俳句、川柳、生け花、手芸創作作品など、地域の皆さんの個性豊かな力作829点が展示され、大勢の方々が鑑賞されました。メイン日の11月3日には、芸能発表部門として11組13演目が披露されました。どの出演者も日頃の練習の成果を発揮し、力のこもった発表に会場は大いに盛り上がり、惜しみない拍手が送られました。また、当日は4年ぶりに屋外での「おまつり広場」

も開催され、地域の農協や商工業者、産直施設、ボランティア団体などによる出店があり、季節外れの夏日という好天にも恵まれ、たいへん賑わいました。朝日地域の芸術文化活動の成果と産業等を広くPRするとともに、実りの秋を多くの皆さんが満喫する一日となりました。

(あさひ産業文化まつり)

実行委員会

豊かな文化を地域に発信

第40回 温海文化祭

作品展示・作品販売・ステージ発表・お茶会

●10月21日～11月3日

●温海ふれあいセンター



温海文化祭は、地域住民の文化活動を広く一般に公開する場として、今回で40回目を迎えました。今年度の文化祭では、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症へ移行したことに伴い、お茶会も開催しました。4年ぶりのお茶会ということもあり、好評を博しました。

作品展示では、保育園や小中学校、福祉施設、サークル、個人などの作品のほか、温海地域出身の彫刻家である故・野尻佐太右衛門氏の作品や各集落の祭の写真なども出展され、華やかな展示会場となりました。

ステージ発表では、初出場の方も含む13団体・2個人が、楽器演奏、踊り、空手の形、詩吟など、幅広い種類のステージを披露しました。昨年度よりも多くの観客が来場し、会場は大いに盛り上がりしました。

(温海文化祭実行委員会)

次世代の育成支援 令和5年度 こども文化クラブ事業報告

藤島体育館

ミュージカル

●東栄小 3年 矢内 こはる

最初は声が出なかったけど、慣れると楽しくなって声も出るようになり、ほめられてうれしかった。



中央公民館

和紙ちぎり絵

●朝陽第5小 6年 安田 風瑠

細かい工夫で和紙は「生きている」という感じがでていてすごいな、と思いました。



次代を担う子どもたちの育成支援の取組みとして、今年度も市の助成を受けて「こども文化クラブ事業」を実施しました。芸文協加盟団体の協力により講師を派遣し、中央公民館や各地区放課後子ども教室と連携しながら、芸術文化活動の体験の機会を提供することができました。また、2年ぶりに「芸能のつどい」にも参加し、子供たちは1年間の成果を舞台上で発表することができました。

令和5年度 こども文化クラブ事業 実施状況

会 場	回数	人数	分 野
中央公民館	6	27	ちぎり絵・文化箏
藤島体育館	3	7	ミュージカル
上郷地区放課後子ども教室	10	102	文化箏・尺八
豊浦地区(三瀬)放課後子ども教室	7	82	ちぎり絵・ステンドG・文化箏・茶道
豊浦地区(由良)放課後子ども教室	10	112	ステンドG・文化箏・フラ・ミュージカル
湯野浜小学校放課後子ども教室	10	136	造形・ステンドG・文化箏・茶道・華道
おおやま放課後子ども教室	6	73	短歌・ステンドG・茶道・華道
西郷地区放課後子ども教室	5	152	短歌・造形・ステンドG・茶道
ねずがせき放課後子ども教室	8	146	ちぎり絵・ステンドG・演劇・茶道・華道
合 計	65	837	11分野

豊浦地区(三瀬)

放課後子ども教室(茶道)

●豊浦小 4年 佐藤 成

おかしをいただき、お茶を飲むと、口の中がマイルドになり、おいしかったです。



上郷放課後子ども教室

尺 八

●上郷小 5年 本間 琉椰

音はでるけど、曲がふけなかったので来年こそは、曲をふくところまでできるようになりたいです。



芸能のつどい

文 化 箏

●上郷小 6年 山戸田 碧希

難しいところもたくさんありますが、演奏できるととても楽しいので来年も続けていきたいです。



西郷地区放課後子ども教室

造 形

●西郷小 4年 本間 桃羽

いろいろなアイデアを出してもっと個性的な作品を作りたいと思いました。



おおやま放課後子ども教室

短 歌

●大山小 1年 さとう ゆま

やってみて、むずかしそうだとおもったけど、たのしくて3まいもかきました。



湯野浜小放課後子ども教室

ステンドグラス

●湯野浜小 2年 小松 未波

ほくもみんなも、きれいにていねいにやりました。うれしいきもちになりました。



豊浦地区(由良)

放課後子ども教室(フラダンス)

●豊浦小 3年 佐藤 青

たくさんの人がいる中でおどるのはきんちょうしたけれど、笑顔でおどれてよかったです。



ねずがせき放課後子ども教室

演 劇

●鼠ヶ関小 3年 五十嵐 心優

かさをもって「やっしょーまかしょーしゃんしゃんしゃん」のところがとても楽しかったです。



ねずがせき放課後子ども教室

華 道

●鼠ヶ関小 3年 佐藤 瑛太

花だけでなく野菜も使ってびんに入れていったことが、びっくりしました。



編集後記

今年の芸術祭はコロナが5類に移行した事で行動制限が緩和され、各団体の活動に力のこもったものが多くみられ、会員はじめ、多くの市民の皆様が展示・公演を楽しまれた事と思います。

四季のはっきりしている日本では、それぞれの季節にあった暮らし方をしきております。今年は暖冬となり雪の無い正月を迎え、その後も雪が降らずに雪不足となり各種行事が中止になったり縮小したりして行われています。豊かな自然環境で歳時記にあるような行事、暮しが伸び伸びと出来る日を楽しみにしたい。

(小林健郎)